振付の視点からする
これからの踊

富士波　雄三

江戸時代の歌舞伎おどり，その歌舞伎おどりを振付けした数人の振付師たちが，のちに独立して日本舞踊を振付けし，それらの作品が伝統の古典舞踊として数多く残っています。振付の内容は多種多様で分析，分類すると大変興味深いものがあります。その中から，

- ◦江戸時代に振付けた歌舞伎踊り……7題
- ◦明治時代に振付けた歌舞伎踊り……5題
- ◦明治時代に振付けた日本舞踊……2題
- ◦大正時代に振付けた日本舞踊……2題
- ◦昭和時代に振付けた歌舞伎踊り……2題
- ◦昭和時代に振付けた日本舞踊……4題

以上合計22の作品の振りの分析をしますと，振りの数は 5,000 以上になります。その中に重複している振りや不必要なものを差し引くと約 1,500 残ります。それだけでも世界の他の国では例をみない数になります。

では，何故日本だけそのように，どうして振りの数が多くなったのか。それは歌舞伎興業を成功させるため，人気役者の踊りを中幕で必ず見せる。それには，いろいろ変化をつけて話題をつくる。上演時間を長くする。その他いろいろの要因が生じながらも，くり返し興業を続けた時代の背景のなかで数人の振付師が作詞，作曲者と協力してつぎつぎと作品をつくったことなのです。分析の結果，江戸時代と明治時代の振付けの振りが残るだけということで大正，昭和の振りはわずかしか残りません。特色としていえることは，芝居することと振付けが混同されたとき，思い入れという表現が重視されたとき，動きに色気があるとか，ないといわれた話題が多くなったとき，踊りの作風が物語を多く取り入れるようになったとき，振付の中味は分析しても何も残っていないのです。これからの踊りをつくるとき，歌舞伎おどりと日本舞踊の振りや表現をそのままつかうときと変化をあたえないとつかえないものがあります。その比率はそのままつかえるものは1/10もないのです。さらに，歌舞伎おどりや日本舞踊の分析以外に作業動作や私の創作動作約 1,300 を加えて合計 2,800 の動作を使用してこれからの日本の踊りをつくり続けるつもりです。結論からいえば新しく自然発生的な動きと表現をつくり，地域グループの一人一人にその動きと踊りを自分のものに活してもらい，生活の中で踊るたのしみと，よろこびに置きかえられるところまでまとめてみたいのです。舞踊のルーツとはこんなものだといえるものをさがしてみます。

では，今回の研究発表の内容について

①民謡　塩釜甚句……振りの数71タイム 3.47秒
②民謡　花笠音頭……振りの数59タイム 2.54秒
③民謡　お立ち酒……振りの数55タイム 3.13秒
④歌謡　九月十三夜…振りの数58タイム 2.33秒
⑤民謡　郡　上　節…振りの数24タイム 2.10秒
合計　振りの数　267

リズム体操とこれからの日本の舞踊

舞踊活動は「踊る」と「つくる」の二つです。

動作分析を具体的に研究するといろいろ深く知ることが多いのです。暮しの中の大衆舞踊これからの日本の舞踊，これをつくることにしました。この目的のためには全く踊になじまない人達，全く踊に関心のない人達に集っていただくことから始めたのです。公民館活動のなかに取上げてもらいリズム体操として初歩から一つ一つ作品をつくりその内容に対する反応などを研究調査しながらすすめてきました。今では私の振付を苦もなく覚え踊りこなすレベルです。日本舞踊や宝塚の踊り表現にはみられない生き生きとした舞踊の原点をみつけたような気がします。公民館活動は生涯教育の現場です。指導ができるようになった人達は新しいグループをつくり指導を始めて下さい。目的は体力づくり，ストレス解消でよいのです。年々レベルが向上するとこれからの日本の舞踊を修得し盆踊，運動会，文化祭などで発表し技術の向上をめざして下さい。私の振付能力に限界を感じたときは私は指導をやめます。私の研究した暮しの中の舞踊は，組織をつくったり規約をつくることはありません。すべて自由に楽しくやって下さい。社会体育として各公民館活動として適切であると地域住民から認められるようになったとき，これからの日本の舞踊が地に根をおろすと思います。